

『沖縄芸術の科学』第33号別刷

【資料紹介】

Wereldmuseum Rotterdam  
所蔵紅型の調査報告

平田美奈子

2021年3月

【資料紹介】

## Wereldmuseum Rotterdam 所蔵紅型の調査報告

平田 美奈子

### Research Report : A Okinawan Bingata Collection in the Wereldmuseum Rotterdam

Minako HIRATA

#### はじめに

本稿は、Museum der Kulturen Basel<sup>1</sup> に続き、Wereldmuseum Rotterdam（以下 WMR と記す）所蔵沖縄染織品のうち、紅型資料について報告する。

WMR での調査は、これまで 2 回行われている。2019 年 10 月に行われた第 1 回調査では織物調査を行った。2 回目は、2020 年 2 月 24 日～28 日に紅型資料の調査を行った<sup>2</sup>。

本稿では、紅型資料の概要と形状について報告をする。

#### 1. WMR 所蔵沖縄の紅型資料の概要

WMR 所蔵の沖縄染織品は 81 点であった。内訳は、織物資料 7 点、染物資料 74 点であり、資料数から染物が積極的に蒐集されていることがわかる。

本調査では、古典的な紅型を調査対象としている。したがって WMR が沖縄の染物として分類している 74 点のうち、更紗裂（75951<sup>3</sup>）や、注染による手拭い（75991）は調査対象から外した。また 77253 は、紅型の型染め技法で製作された着物ではあるが、現代の絵羽模様の振袖であり除外した。その結果、WMR が所蔵する染物資料のうち、調査の対象となる紅型資料は計 71 点となった。

## 2. 所蔵年からみる紅型資料

WMR が紅型資料を入手した際の記録は、購入年代と購入元または旧収蔵先のみで、その他の詳細な情報は不明である。

表1に、WMR所蔵紅型資料71点の所蔵年別の蒐集先と資料数について示した。

表1 Wereldmuseum Rotterdam 所蔵紅型資料の所蔵年別資料数

所蔵年	蒐集先	着物	裂	ウチクイ	小計
1956	J.Langewis	5	32	0	37
1958	J.Langewis	0	0	1	1
1960	J.Langewis	2	0	0	2
1968	Museum Nusantara <sup>4</sup>	0	3	1	4
1994	Textile Museum	0	26	1	27
	合計	7	61	3	71

表1より、紅型資料の蒐集は、1956年から1994年の間に計5回行われていたことがわかる。所蔵年が古いものから1956年・1958年・1960年・1968年と続き、最後の入手は1994年であった。

紅型資料を最も多く蒐集したのは、1956年であり37点をJ. Langewisから入手している。次に多いのは、最後に資料をTextile Museumから入手した1994年の27点である。

## 3. WMRの紅型資料

表1より、WMRの紅型資料は、着物7点、紅型裂61点、ウチクイ3点である。着物7点(40773・40774・40775・40776・40895・51626・51627)は破損のない良い状態であった。

ウチクイ資料3点(47333・58739・75913)は、いずれも正方形である。ウチクイは、松竹梅模様が輪状に構成され筒描きの技法により布全面に描かれていた。

そのうち2点は、鶴亀の丸文が型染により輪の中央に加えられ、筒描きと型染の2種類の技法が使われていた。ウチクイの大きさは、反物幅の生地を3枚接いだものが2点と、同様に5枚を接いた一辺が2mを超えるウチクイが1点であった。

本稿では、すべての撮影を終了していない着物・ウチクイ資料の報告は省き、紅型裂資料についての報告を行う。

#### 4. WMRの裂資料

表2に、WMR所蔵紅型裂資料<sup>5</sup>の名称、寸法（縦×横長さ、単位cm）を示した。名称は、調査にもとづき素材・地色・模様・大別・形態の順に付与した。

表2 Wereldmuseum Rotterdam 所蔵の紅型裂資料

No.	収蔵番号	名称〔素材・地色・模様・大別・形態〕	寸法(h×w)
1	40312	木綿葡萄地唐草に松梅扇模様臙型裂	68×38
2	40313	木綿浅地波に鳥梅模様紅型裂	48.5×36.4
3	40314	木綿葡萄地梅菊柳流水模様紅型裂	65×35.5
4	40315	木綿浅地鉄線梅女郎花葛模様紅型裂	67.8×33.5
5	40317	苧麻染分地立涌に唐草渦模様紅型裂	59.2×32
6	40318	木綿水色地青海波に菊雪輪梅模様紅型裂	73×37.5
7	40319	木綿黄色地籠に牡丹藤燕模様紅型裂	96×30.4
8	40777	木綿花色地楓葡萄模様紅型裂	244×34.2
9	40781	絹黄色地松皮菱藤模様紅型裂	17×18.2
10	40782	木綿黄色地流水桜楓籠模様紅型裂	5.2×8.7
11	40783	木綿葡萄地扇繫ぎにあられ松葉模様臙型裂	6.5×5.8
12	40784	木綿緑地桜繫ぎ模様紅型裂	4.2×10.3
13	40785	木綿葡萄地梅菊柳流水模様紅型裂	8×13.1
14	40786	木綿黄色地女郎花梅流水模様紅型裂	18.3×6.5
15	40787	木綿緑地萩繫ぎに四つ露模様臙型裂	15.3×7.8
16	40788	木綿葡萄地小花繫ぎに丁子模様臙型裂	11×8.2
17	40789	木綿花色地梅水草貝模様紅型裂	16.4×6.1
18	40790	木綿黄色地楓傘扇模様紅型裂	8.5×17.1
19	40791	木綿花色地菊唐草模様臙型裂	14.6×3.8
20	40792	木綿黄色地女郎花梅模様紅型裂	12.8×3.2
21	40793	木綿ブキ地雷菊模様紅型裂	4.5×10
22	40794	木綿花色地花びら尽くしに斜格子梅模様臙型裂	19×3.9
23	40795	木綿染分地雲に薔薇模様紅型裂	17.2×6

No.	収蔵番号	名称〔素材・地色・模様・大別・形態〕	寸法(h×w)
24	40796	木綿花色地氷裂にあられ松葉模様臙型裂	11.4 × 6.2
25	40797	苧麻白地梅模様紅型裂	14.7 × 2
26	40798	木綿水色地牡丹尽くしに桜模様紅型裂	14.1 × 4.1
27	40799	木綿白地梅鳥散らし模様紅型裂	11.8 × 6.7
28	40800	木綿ブギ地葵唐草模様紅型裂	8.2 × 3.6
29	40801	木綿灰色地桜貝青海波模様紅型裂	18 × 18.8
30	40802	木綿葡萄地梅菊柳流水模様紅型裂	13.5 × 22.4
31	40803	木綿葡萄地小花繫ぎに丁子模様臙型裂	11.2 × 7.6
32	40804	木綿斜格子繫ぎに小花模様臙型裂	11.8 × 7.5
33	58732	木綿染分地雲に松竹梅菊模様紅型裂	59 × 16
34	58733	木綿浅地菊楓花器模様紅型裂	62.3 × 12
35	58735	木綿白地鳳凰牡丹模様紅型裂	49 × 36
36	75903	絹黄色地松皮菱藤菊模様紅型裂	47 × 17.6
37	75919	木綿白地鳥桜霞模様紅型裂	16 × 19.8
38	75920	木綿黄色地楓傘扇模様紅型裂	30.6 × 13.3
39	75921	木綿水色地流水に窓絵模様紅型裂	9.4 × 9
40	75922	木綿浅地梅霞模様紅型裂	12.9 × 3.9
41	75924	木綿花色地菊枝垂れ桜模様紅型裂	19.6 × 9.8
42	75925	木綿葡萄地梅鳥松葉模様紅型裂	10.6 × 6.8
43	75930	木綿深浅地松竹梅桐鶴模様藍型裂	10 × 18.7
44	75940	木綿深浅地松竹梅桐鶴模様藍型裂	17.4 × 18.7
45	75944	桐板深浅地松竹梅楓鳥に鉄線松葉羽模様藍臙型裂	58 × 16
46	75945	木綿白地鳥桜霞模様紅型裂	99 × 19.8
47	75946	桐板花色地牡丹唐草模様紅型裂	17.5 × 18
48	75953	木綿浅地波に桜模様紅型裂	20.5 × 3.8
49	75954	桐板花色地牡丹唐草模様紅型裂	60 × 17.6
50	75955	木綿赤地格子に網代鞠模様紅型裂	21 × 23
51	75958	木綿葡萄地斜格子繫ぎに四つ露模様臙型裂	8.5 × 7
52	75959	木綿深浅地梅繫ぎ模様紅型裂	13.5 × 15.5
53	75961	木綿水色地斜格子に笠牡丹模様紅型裂	16.7 × 30.5
54	75962	木綿染分地雲に牡丹模様紅型裂	19.5 × 13.1
55	75963	木綿黄色地流水干網松菊模様紅型裂	28 × 9
56	75964	木綿白地菊窓絵短冊模様紅型裂	33.6 × 14
57	75965	木綿水色地雪輪繫ぎに枝垂れ桜模様紅型裂	14 × 33.9
58	75967	木綿黄色地松皮菱繫ぎに扇椿模様紅型裂	32.3 × 11
59	75968	木綿染分地雲に流水椿桜模様紅型裂	11.9 × 33
60	75980	木綿深浅地松竹梅桜鳥模様藍型裂	35 × 10.3
61	75982	苧麻水色地流水に桜楓模様藍型裂	62.5 × 30.5

裂資料の内訳は、着物を解いた状態の裂が3点（身頃：40777、袖：40315・40318）、着物を解いた後さらに小片へ断ち切った裂が58点であった。一部の裂資料には、着物の部位が推定できる縫い跡・折れの跡、着用によって生じる退色や汚れなどが確認できた。その結果、着物の部位が推定できた裂資料は32点、部位が判断できなかった裂資料は29点であった。

着物の部位が推定できた資料について、以下に記す。

身頃にあたる裂資料は、7点確認できた。40777は、着物を解いたままの見頃裂<sup>6</sup>であり、WMRの裂の中で最も大型である。残りの見頃裂6点（40312・40314/40785/40802・40801・58735）は、身頃の一部を断ち切った資料である。このうち40314/40785/40802は、裁ち切り部分が繋がる同一裂<sup>7</sup>であった。

袖にあたる裂は3点であった。2点（40315・40318）は片袖全体の裂であった。

衿の裂は、16点確認できた。そのうち12点は、衿上部の剣先部分の裂である（写真1）。11点（40786・40787・40788・40794・40795・40798・40803・75920・75964・75967・75980）は剣先の形が確認できた。長方形の棒衿の裂は1点（75963）認められた。残り4点（40790・75930/75940・75944）の裂は、衿の下部分に位置すると考えられる。このうち2点（75930/75940）の裂は同一裂であった。



写真1 衿上部剣先部分の裂（40786）



写真2 中央に折り目のある衿部分の裂（40781）

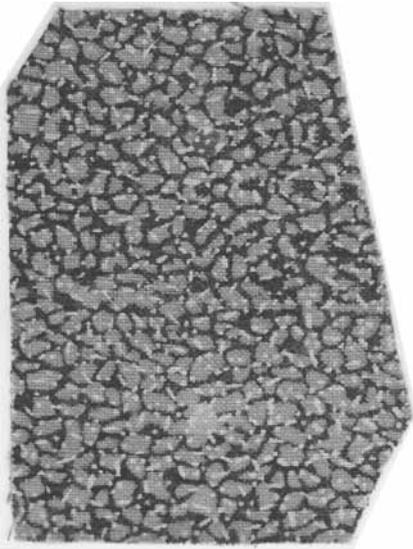


写真3 多角形の剣先部分の裂(40788)

衿の裂資料は、6点(40781/75903・58732・75919/75945・75959)確認できた(写真2)。衿の裂資料の中には、同一裂が2組(40781/75903・75919/75945)含まれていた。

裂資料の中に、裂の一角が切り取られた多角形の形の資料4点が確認できた(写真1、写真3)。比較的小さく裁ち切られた資料で布の形より衿裂と推定できるが、着物の形態とは直接関係しない角が何故切り取られているのか不明である。このような形はサントリー美術館所蔵品でも見ることができる特徴である。

## 5. まとめ

本稿では、WMR所蔵の紅型資料のうち、調査を完了した裂資料61点について報告した。WMRは、沖縄染織資料のうち紅型資料を積極的に蒐集し、その中でも裂資料が多いことがわかった(表1)。また、主な入手先は1956年にJ. Langewis、1994年にTextile Museumであった。

WMRの紅型資料は、着物7点、ウチクイ資料3点、裂資料61点であった。裂資料は表2に示すよう名称を付与した。

32点の裂資料は、その形態、縫い跡や折り目の跡、汚れや退色具合などから、着物本来の部位が推定できた。また、同一裂資料が4組9点確認できた。

今後は、WMR所蔵のウチクイと着物の撮影を完了させるとともに、調査資料の詳細な研究を進めて行きたい。

本調査は、2019年度科研費「在欧沖縄染織品の調査とそのコレクションの成立に関する研究」（研究代表者：柳悦州、国際共同研究強化（B））の助成によるものである。

## 注

- 1 在欧の沖縄染織品調査は、2017・2018年にスイス・バーゼルのMuseum der Kulturen Basel (MKBと記す)で行われており、欧州での調査は2カ国めとなる。平田美奈子「Museum der Kulturen Basel収蔵の琉球染織品の調査報告－紅型資料の調査報告－」（2018年 沖縄県立芸術大学附属研究所紀要『沖縄芸術の科学』第30号 pp. 107-125）
- 2 在欧沖縄染織品調査は、新田摂子（沖縄県立芸術大学附属研究所講師）、柳悦州（沖縄県立芸術大学客員教授）、筆者（沖縄県立芸術大学附属研究所共同研究員）、海外共同研究者のハンス・トムセン（チューリッヒ大学教授、沖縄県立芸術大学附属研究所客員研究員）により行われている。
- 3 本稿の5桁の番号は、所蔵先であるWMRの所蔵番号である。
- 4 オランダ・デルフト（Delft）のMuseum Nusantaraは、現在は閉業している。
- 5 裂とは、以前は着物を解いたものである。そのため見頃や衿・袖・衿であった縫い跡や形状の特徴を残したものがある。また、さらに解かれた各部位を小片に断ち切ったものもある。
- 6 40777は、全長244cmあり標準的な身頃丈の2倍の長さである。中央の肩山にあたる部分には衿肩あきの切れ込みがあり、片身頃がすべて残っている。
- 7 同一裂とは、同じ裂が複数に裁断され、別の所蔵番号が付与されている裂を指す。同一裂には、裁ち切り部分が繋がるものがあり、その場合には、「裁ち切り部分が繋がる同一裂」と記した。

